

総合的な学習の時間の指導力向上のための一考察

～ラーニングマップⅠ・Ⅱを活用して～

Consideration to Increase Teaching Capacities During the Period of Integrated Studies

—By Making Use of Learning Maps I and II—

山 田 希代子

要 旨

「総合学習の研究」の中で、教師としての指導力を高めるための手立てを考察する。開発した「ラーニングマップ」を活用し現職教師の授業分析を行う。その意義を学生の学びに生かし、今後の指導力量を高める指導のあり方を考察していく。

キーワード：総合的な学習の時間 ラーニングマップ 指導力 単元構想

はじめに

平成32年度より「新学習指導要領」が実施される。全ての大学においても平成31年度より「総合学習の研究」が必修科目として開講される。「総合的な学習の時間」の新設がなされて20年が経つが、その間に大きな成果をあげてきた一方で課題も明らかになってきた。これから現場に立つ教師には、従来にもまして、子どもたちが新たな時代を切り拓く「資質や能力」を確かに身に付け、「未来社会に求められる人材」を育成する指導力が求められる。現職教師や教職を目指す学生の総合的な学習の時間における指導力向上のための手立てを考察する。

(1)「ラーニングマップⅠ（学習活動案タイプ）」が生活科のみでなく、総合的な学習の時間の指導にも活用できることを明らかにしていく。

(2)「ラーニングマップⅡ（単元構想タイプ）」を活用し、大学の授業で総合的な学習の時間における指導力をつける指導法を明らかにしていく。

大学では総合的な学習の時間の授業において、理論を学ぶことと同時に、実践的な指導力を身に付けていくことが求められる。

総合的な学習の時間の指導には、教科書が存在しない。時代のニーズを背景に、教師は、教科目標を踏まえ、学校目標と照らし合わせた上で「総合的な学習の時間」の目標を設定する。各学校や地域の特徴を生かしつつ、子どもに必要な「育成を目指す資質・能力」を明確に示し

て内容を精選し指導しなければならない。これらを各校で明確にしていくことで、将来にわたって役に立つ「探究的な物の見方・考え方」「資質・能力」を子どもに着実に育んでいくためである。

将来教師を目指す学生に対しても、新学習指導要領改訂のねらいを的確にとらえ、効果的に指導する一方で、子どもに力をつけることのできる指導を身に付けるための指導のあり方や手立てを考察することが求められる。

1. 新学習指導要領で求められる総合的な学習の時間の授業のあり方

総合的な学習の時間の目標で「探究的な見方・考え方」を働かせ、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す」ことが明確にされた。

「各学校は総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力を設定する」ことが求められ、「協働」「考えるための技法」「コンピューター等の活用」による学習内容、学習指導の改善と充実が示された。

「探究的な学びがなければ、総合的な学習じゃないといえる」のである。探究的な学びのプロセスを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を構築していかなければならない。

生活科でも活用した「ラーニングマップ」を総合的な学習の時間においても活用することで、探究的な学びを通して「育成を目指す資質・能力」を確かに身に付ける指導力を育成する指導の有効な手立てになるのではないかと考える。

2. 総合的な学習の時間に「ラーニングマップ」を活用した事例

「ラーニングマップ」は、学習環境や子どもの学習活動を簡単な絵や言葉で書き表したものである。環境を生かす授業づくりを目指して開発されたが、生活科の授業への活用を検証すると、教師の指導力向上に役立つことが分かってきた。（同誌37号論文参照）

そこで、「ラーニングマップ」を総合的な学習の時間の指導に活用した例を取り上げ、その効果を考察していきたいと思う。

（1）総合的な学習の時間に「ラーニングマップ」を活用した授業づくりの実例

① 小学校・地域・子どもの特色と実態

本小学校は、町中にありながら、近くには須磨アルプスや須磨離宮公園もあり、豊かな自然環境に恵まれている。一方、校区にはや須磨寺・須磨寺商店街があり、歴史も豊かなところである。この町に住む人々が代々地域の自然や歴史を誇りに思い、愛着をもち、現在の環境を守ってきた。

学校には裏山もあり、豊かな自然を生かし、理科教育や生活科教育・総合的な学習を教育課程の中心に据えてきた伝統がある。春には裏山からヒキガエルが花壇近くの池を訪れ、卵を産み付け、しばらくすると真黒なおたまジャクシがあふれかえる。そして、ある夜に一匹残らず山に向かって姿を消すなど、命の不思議も多く目にする機会がある。

これらの特色を生かし、総合的な学習、理科、生活科を中心として、他教科との関連を図りながら、6年間を通して様々な命を学ぶカリキュラムを立てている。

まさに、環境を生かした探究的な学びのある授業のあり方が問われる。

本単元では、3年生が裏山をフィールドとし、裏山に住む小人の物語を作る学習活動を通して裏山の様々な命を学ぶ。

3年生の児童の実態	
<p>○決められたことはきちんと行い、自分で考える力もついてきている。</p> <p>○友達と一緒にすることを楽しみ、困っていたら手を差し伸べる。</p> <p>○虫や動物が好きで、自然に興味をもっている。</p>	<p>●自分の考えや発見を誰かに伝えたいという思いが弱く、自分の考えを強く主張しようとしにくい。</p> <p>●生き物に対する命の実感が乏しく、大切にできていない。</p>

教師の願い
<p>学校に裏山があり、すぐに山の自然に触れ合うことができ、様々な木々が息づき、それらとともに鳥や虫、小動物も数多く生息している。しかし、子どもたちにとって裏山はあまりにも身近すぎて意識して大切にしようという思いが薄く、裏山のよさに気付いていない。本単元の学習を通して、裏山の豊かな自然やよさに気づき、「裏山に住む小人の物語」を作ることを通してもう一度裏山に生きる木や草や鳥や虫に目を向け、裏山に吹く風を感じ、聞こえる音に耳をすませ、裏山ってこんなに素敵なおとこだと実感させたい。子どもたちはこの活動を通して、裏山が大好きになり、大切にしていきたいと強く思うに違いない。</p> <p>また、滑りそうになる山道を友達と助け合いながら登り、一緒にお気に入りの木や場所の名前を考え地図作りをするうちに、友達のよさに気づき助け合って活動する心地よさを感じるに違いない。作った物語を交流し、よい所を見つけたり、アドバイスし合ったりして、友達の表現のうまさを認め、自分のよさも認めてもらい、自信をもって自分の考えを伝え合い共に伸びていこうとする集団へ高まってほしいと願っている。</p>

つきたい力
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然やその中に息づく命を大切にしようとする力 ・意欲的に裏山の自然を観察しようとする力 ・発見したことや自分の思いを進んでいろいろな方法で伝えようとする力 ・互いを認め合い、共に伸びていこうとする力

② 単元名「いいとこ北須磨～ぼくらの裏山～」(3年 総合的な学習)

③ 単元の学習活動計画

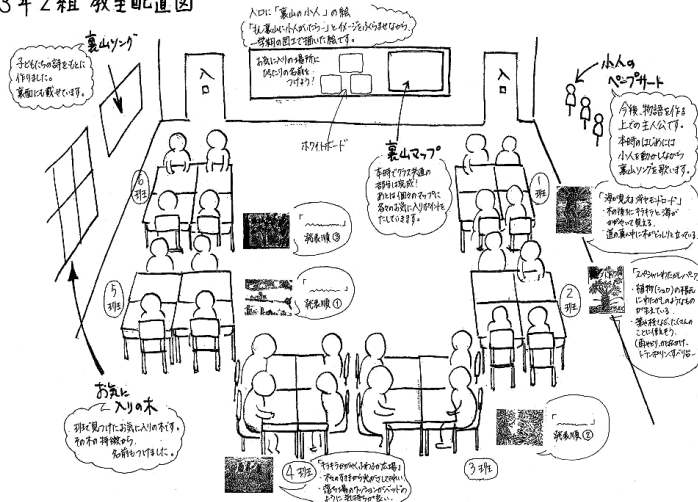
単元目標
<ul style="list-style-type: none"> ・裏山の自然を体感し、意欲的に観察しようとしている。【関心・意欲・態度】 ・裏山の自然の豊かさを探究し、物語や歌、地図などに工夫して表現できる。【思考・表現】 ・北須磨小学校の恵まれた自然環境やそこに息づくたくさんのいのちに気付く。【気付き】 ・協力し合って活動する中で自分や友達のよさに気付く。【気付き】

学習活動計画（全25時間）

	主な学習活動	めあて
みつける	<p>裏山を見てみよう（6時間）</p> <p>◇裏山を舞台に小人物語を作ることを知る。</p> <p>◇裏山オリエンテーリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木々の観察 ・裏山のマザーツリー探し…裏山に歩きの中で、自分がマザーツリーだと思う木の幹の太さを調べる。 ・お気に入りのツリー探し…くねくねの木・つるつるの木・つるだらけの木・穴ぼこの木 ・お気に入りの木で起こるショートストーリー作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏山を舞台にした小人物語のイメージをもち、書くために準備することを見つける。
みとめ	<p>物語の計画を立てよう（3時間）</p> <p>◇物語づくりの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三年峠」（国語）で学習した物語の構成を思い出す。 ・登場人物を考える。小人のペープサートを作る。 ・登場人物の舞台となるマップ作りのために、裏山のどんなところを調べればよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の舞台となるマップ作りをしていくために、もっと裏山のことを知る必要があることに気付く。
もとめる	<p>裏山マップをもとに物語を作ろう（13時間）</p> <p>◇友達と裏山を探検しながら、自然を観察する。</p> <p>◇山の楽しさが伝わる歌を作る。</p> <p>◇物語の舞台に適した場所を探す。</p> <p>◇お気に入りの場所に名前を付けマップに書き入れる【本時】</p> <p>◇マップを使ってあらすじを紹介しあう。</p> <p>◇裏山で出会った自然や命に思いをはせながら、裏山に住む小人の物語を作る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 始まり ② 出来事の起こり ③ 出来事の変化 ④ むすび <p>◇多様な方法で、物語のクライマックスを紹介しあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの場所を見つけマップ作りをすることで、物語作りへの意欲をもつ。 ・友達と交流する中で、物語の舞台となった裏山のよさを再認識する。
いかす	<p>物語を交流しよう（3時間）</p> <p>◇物語を作って思ったことや、友達の話を聞いて思ったことを発表しあう。</p> <p>◇この学習の前と後で、裏山に対する思いがどう変わったか確かめあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい物語を作ることができた裏山を、これからも大切にしていこうという思いをもつ。

④ 本時の「ラーニングマップ」(上)と学習活動案(下)

3年2組 教室配置図



本時の目標 お気に入りの木の特徴をいかにして、ショートストーリーを作ることができる。

本時の展開

活動の流れ	児童の活動	支援(○)と評価(●)
1. 今日めあてや活動の流れを確認する		○前時の活動を確認し出すため、お気に入りの木の絵を見せる。
お気に入りの木でおこるショートストーリーを作ろう		
2. 班で見つけたお気に入りの木を紹介する	・絵で、その木の特徴やどこがお気に入りか、その名前を付けた紙を提示する。 お気に入りの木は、この木で毎日ターザンごっこをしています。 つるがぐんぐんおち下がりついで、ターザンごっこをしています。	○発表しやすいよう、班ごとに黒板面を用意し、そこに絵を提示する。またそのままだを提示しておくことで物語のイメージを持たせやすくする。
3. その木で起こるショートストーリーを作る	・特徴をいかにしながら、その木にまつわる小人の物語を作る。 小人は、この木をすべりおもしろい遊具の発見者です。 小人は、この木で毎日ターザンごっこをしています。 ・友だちの作った物語を読んで、感想やアドバイスを伝え合う。 木のつるが滑りやすくてよくおちてきたよ。どうやって上まで登るの？ ターザンごっこ楽しそう。続きが気になる！	○その木の特徴を生かした！物語のイメージを持たせため、黒板が作ったショートストーリーを紹介する。 ○1回目は一文でもよしとする。
① ストーリー作り1回目		○感想のポイントとして、必ず1つは良い所を見つけ、伝えるように声をかける。 ○感想やアドバイスの視点を黒板に提示しておく。
② 班の中で交流		・木の特徴が伝わるか ・その木で遊ぶ楽しさが伝わるか
③ 他との交流	・友だちからのアドバイスや、友だちの作品を参考に、もう一度物語を作る。 アドバイスをもっともらいたから、もっと書けたよ。 お気に入りの木だけじゃなくて、お気に入りの場所も書きたいな。	○後で参考にするために、他との交流ではふせんを用意する。
④ ストーリー作り2回目		●お気に入りの木の特徴を生かしたショートストーリーを作ることができる。
4. 本時のまとめ		○1回目少ししか書けなかった子が、2回目はアドバイスをもっともらいてどんどん書けたことなどを紹介し、そこから自分のアドバイスが友だちの役に立ったと実感させたい。
		○もっと物語を書きたい、物語を書くためにもっと裏山を観察したいという意欲を持たせる。

(2) ラーニングマップの意義と効果

① ラーニングマップと学習活動案の比較

	学習活動案	ラーニングマップ
目標	本時の目標で簡単な文章で表記	<ul style="list-style-type: none"> ・教室前の黒板に子どもへの投げかけとして表記 ・全面の黒板の絵に「裏山マップ」が記され本時でクラス共通部分を完成させることを表記
授業の流れ	活動の流れの欄 簡略な4つの文(1～4)で表記	班の側の空間に発表順のみ表記

子どもの 学習活動	<p>児童の活動欄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 人の子どものキャラクター ・ 予想される発言が吹き出しで表現されている ・ お気に入りの場所の特徴の発表で 5 つの吹き出し ・ 最後の子どもの気持ちと高まった意欲を 2 つの吹き出しで表記 ・ みんなで行う学習活動を 1 文で表記 ・ ネーミング例が 2 つ 	<p>簡単な絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小人のペープサートが準備され、今後の物語の主人公であることが紹介され、本時のはじめに子どもたちがこれを動かしながら裏山ソングを歌うことを文章表現 ・ 子どもが班ごとに話し合う様子を絵で表現 ・ 発表順の表記で、順次の班ごとの発表が表現 ・ 前面の黒板にホワイトボードが描かれ、ホワイトボードを使って発表することを表現 ・ 前時での班ごとのお気に入りの木の絵が添付されそれぞれの班のお気に入りのネーミングとその理由が詳しく文章表現 ・ 前面の黒板に裏山マップが描かれ、クラス共通の部分を本日記入し、各々のお気に入りポイントを書きたしていく裏山マップ作りの見通しが文章表現
教師の かかわり	<p>支援と評価欄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 つの支援項目が文章表現 ・ 2 つの評価項目が文章表現 	
掲示物 準備物等		<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボード ・ 裏山マップ ・ 「裏山の小人」の絵 ・ 小人のペープサート ・ 裏山ソング ・ 班で見つけたお気に入りの木の絵

以上の比較より、「ラーニングマップ」は、子どもの学習活動の表現がより具体的となることが分かる。掲示物・準備物・黒板の活用方法等、子どもにとっての教室での学習環境が多く書き入れられ、子どもの学習の成果や見通しが分かりやすい。

教室の入り口に掲示された「裏山の小人」の絵には、「『もし裏山に小人がいたら…』とイメージをふくらませながら一学期の図工で描いた絵です。」と記され、子どもと絵とのかかわりや心情まで表現されている。「裏山ソング」にも、「子どもたちの詩をもとに作りました。」と記され、子どもとのかかわりと同時に子どもがよせているであろう心情も伝わってくる。「お気に入りの木」では「班で見つけたお気に入りの木です。その木の特徴から名前をつけました。」と記され、「海が見えるダイヤモンドロード」「スペシャルわたがしパーク」「きらきらかがやくふかふか広場」の「お気に入りの場所のネーミング」など、「お気に入りの木」の学習で獲得した知識・技能が発揮されていたものであることもうかがえる。裏山の木や場所に愛着をもっていることも伝わってくる。「ペープサート」の「本時のはじめには小人を動かしながら裏山ソングを歌います。」と記され、子どもの楽しそうな身体表現や笑顔まで浮かんでくる。

学習活動案が教師の予測する一つの子どもの到達の姿を表すのに比べ、「ラーニングマップ」では子どもの活動の経過を表現しているといえるのではないか。

「ラーニングマップ」では本時の目標が子どもに投げかける表現で示され、準備物・掲示物

等も子どもの活動を促すよう整えられている。「ラーニングマップ」を活用することで、より子どもによりそった、子どもの主体的な学習活動を可能にする授業が構想される。子どもの主体性に重きをおく総合的な学習の時間において効果的であると考えられる。

一方、「ラーニングマップ」では、「教師のかかわり」が記入されていないことが上記の比較において明らかになった。指導という点において、教師の子どもへのかかわりが示されないのは大きな問題である。そこで、実際に指導した授業者の振り返りを聞き取ることによって、指導者側にとつての「ラーニングマップ」を考察していく。

② 授業者の振り返り

成果
<ul style="list-style-type: none"> ・絵をかくことによって一つ一つが意識され、頭の中が板書計画を考えるときのように整理された。 ・授業のねらいと流れを考え、子どもの活動をイメージすることができた。 ・子どもの活動をイメージすることで、教師がどうかかわっていくかと具体的に考えた。 ・授業のねらいの達成に向けて、教師の立ち位置を考えるようになった。 ・裏山での教師や子どもの動きがつかみやすく、事前に必要な言葉かけ等を考えることができた。 ・教室の掲示物等を書くため、子どもの学習活動にどんなものが必要となるかを考え、準備物や掲示物・黒板の使い方等の計画が明確になった。 ・回りの環境を整え、教師のかかわりを事前に具体的に考えることが、子どもの主体的な学びを実現することにつながった。
課題
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習活動をより具体的に予測するためには、吹き出し等で書き込んでいくとよいと思った。 ・教師の動線を記入することも工夫できそう。 ・絵に時間をかけると負担がかかるので簡単に書く程度にとどめた方がいい。

授業者の振り返りによって、学習環境や子どもの活動の絵を描くことによって、それらが意識化され、意図され、授業につながっていったことが分かる。「ラーニングマップ」を活用したことにより、子どもの活動が具体的に予想でき、「ラーニングマップ」に書き表されていない教師の立ち位置の検討や子どもへのかかわりのありようの模索を促していたことも分かる。

経験年数の浅い若手教師や教師を目指す学生にとって、子どもの具体的な活動の姿を予測しやすい「ラーニングマップ」を活用することは、総合的な学習の授業を構築する上で指導力をつけていく一つの有効な手立てとなりうる。予測し、授業や模擬授業で修正し、新たに予測する。これを意図的に繰り返す姿勢を身に付けることで子ども理解が高まっていく。

③ 総合的な学習で「ラーニングマップ」を活用した成果と課題

学習指導案と「ラーニングマップ」の比較検討、授業者の振り返りにより、総合的な学習の時間での指導においても、「ラーニングマップ」を活用することによる効果が見られる。

学習環境や子どもの活動を絵で表すことは、授業者にとって、子どもと学習環境との相互のかかわりを意識化させ、子どもの主体的な学習活動を促す教師のかかわり等を予測し、指導に

生かすことができる。

総合的な学習の時間の「学習指導の第1の基本は、学び手としての児童の有能さを引き出し、児童の発想を大切に、育てる主体的、創造的な学習活動を展開すること」「児童の自主性や自発性を重視し、児童の思いや願いを大切にすること」である。そして、「学習指導の第2の基本は、「探究課題に対する考えを深め、資質・能力の育成につながる探究的な学習となるように、教師が適切な指導をすること」である。

子どもの活動がイメージしやすく、子どもの主体的な学習を促す「ラーニングマップ」に見られる特質を生かして、総合的な時間の指導に求められる探究的な学習における子どもの学習の具体的な姿を描くことで指導の力をつけることができる可能性をみいだしたことが成果といえる。

一方、課題も明らかになってきた。一番の課題は描くことが苦手の教師・学生にこの趣旨を生かす方法がないかということである。これについては、「ラーニングマップ」の活用の研究を続けながら向き合っていきたいと考える。この総合的な学習の時間の指導に「ラーニングマップ」を活用した授業の中で、下記のような課題がでてきた。

- ・単元名や単元目標を分かりやすく明記する。
- ・子どもの学習活動を一層具体的にするために吹き出しを書きこんでいく。
- ・「ラーニングマップ」に教師の姿を書き加えることで、指導者の立ち位置や子どもへのかかわりを表すことができるようにする。
- ・活動の流れが分かりやすい表現を工夫する。
- ・子どもの学習の高まりや深まりが表現されにくいので、書きぶりの工夫をする。

これらの課題を解決しつつ、総合的な学習の研究の授業において、「ラーニングマップ」を活用した学生への指導を考察していく。

3. 「ラーニングマップ」を活用した学生の学び

総合的な学習の時間の学びは、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習の過程がその本質といえる。探究的な学習の過程は、単元の中で展開される。探究的な学習の過程が確かに位置付けられた単元を構想し、子どもの学びの高まり深まりの姿を想定して適切にかかわることのできる総合的な学習の時間に必要とされる指導力を学生に身に付けさせたいと考える。

そこで、子どもの学びの姿を具体的に予測し、周りの学習環境とのかかわりを意識し、教師のかかわりを考えていく上で効果がある「ラーニングマップ」を学生の授業に活用しその成果と課題を探りつつ研究を進めていきたいと思う。

ここで、単元構想におけるラーニングマップを「ラーニングマップⅡ（単元構想タイプ）」

と名付け、子どもの学習活動案を構想する「ラーニングマップⅠ（指導案タイプ）」と区別する。

単元計画をたてる際に、「学習環境とどのように子どもがかかわっていくのか」「子どもがどんなことに興味・関心・疑問・課題をもち解決していくのか」「どのように学びが深まり高まっていくのか」「教師がどこでどのようにかかわっていくのか」などを想定できる力が教師には必要である。「ラーニングマップⅡ」を活用し、その力を育んでいく。

（１）探究的な学習過程の理論の学び

- ① 理論を学ぶ
- ② グループで協力して単元づくりに挑戦する。
- ③ 互いに発表し合い、気づきを伝え合って相互評価する。
- ④ イラストをもとにスパイラルの意味をつかむ。
- ⑤ １人１人の人物に吹きだしをつけて話していることを想像することによって学習がスパイラル状に高まり深まっているのを具体的に確認する。

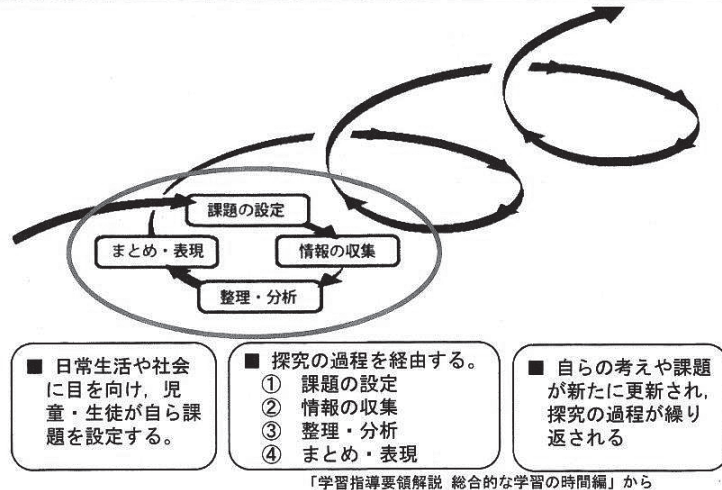
学生の受け止め

- ・今日は、探究的に学ぶ子どもたちの姿をスパイラルを通して確認することでさらに流れをつかむことができたように感じます。
- ・教師の立ち位置が少しずつ変化していくことや、子どもたちの活動が「学習との関わり」を繰り返し行うことでひろがっていくなど、イラストやほかの学生の意見から学ぶことができました。
- ・３つのサイクルの中で、先生の関わり方、子どもの活動が変化していく様子を見ていった。
- ・自分たちの中だけで完結するのではなく、家の人や他学年にも学習したことを伝えることで、自分の振り返りにもなり、これからの自分の生き方・考え方にも変化があるのだろうと考えた。
- ・この学習を進めるためには、先生同士や地域など様々な関わる人との話し合いが教師には大切ななるなと思いました。
- ・どこまで先生が導いて、どこから子ども中心に活動させるのか、その線引きが難しいと思った。
- ・先生自身が地域を知る、相談（学年どおし）する、専門家と協力する、こういった方法が有効か実践例を学ぶ、子ども目線に立つといった準備やよりよい単元にするためにどうすればいいか考え続ける必要があると思った。
- ・探究的な学習をするためには、教師の手助け、共感的に関わるが必要だと分かった。
- ・教師自身も知識がないといけないため、地域の人々や専門家など、多くの協力が欠かせないと分かった。
- ・子どもの発達段階に合った題材・関わり方をしなければ探究的な学習にはなりにくいのかなと感じた。
- ・大学見学（探検）を経て子どもたちの思考はどう動くのか、何に興味を示すのかというような児童理解が不可欠ではと思った。
- ・吹き出しをすることで子どもたちの考えていることがこんなに分かるのかと驚きました。
- ・自分たちの計画をスパイラルに当てはめてみましたが、あと何が必要なのか、まだ、さがすことができました。
- ・前回の学習を生かしてさらに深めることがとても面白く、とても充実した授業でした。
- ・題材は同じでも、ねらいが違っていると、こんなにも学習の流れが変わるのかと驚いたし、面白かった。

(2)「ラーニングマップⅡ」の活用による学び

探究的な学習における児童・生徒の学習の姿

総合的な学習の時間における 探究的な学習における児童・生徒の学習の姿



ラーニングマップⅡ（単元構想スタイル）

単元名 「えがこう わたしたちの 未来絵（5年）」

単元名 えがこう わたしたちの 未来絵 (時間数 30) 実施予定学期 (2,3学期)
ねらい ねらいがら、神々親友や人々と通し、やがていこはなつた夢と見つけ 自らの将来を描く。



学生の受け止め

- ・「ラーニングマップⅡ」作りを通して単元づくりを進めると、子どもの反応、思考や先生の関わり方、どんな方々に協力を求めたらいいかという学習の流れが見えてきて、文字だけで考えるよりもよりイメージしやすかったです。
- ・最初に考えた単元をサイクル（探究的な学習の）を学んで、より実施の単元作成に近づけ、「ラーニングマップⅡ」を作成する作業を楽しく行うことができました。文字に書きおこすだけではなく、イラストを用いることでより具体的な場面を想像し、子どもたちがどのようなつぶやきをするのか考えやすくなりました。
- ・総合学習の1サイクルでの活動の展開、全部の活動を終えたときの子どもの姿を想定した大きなくくりでの活動の展開という全体をみすえた単元設定が必要だということが分かりました。この考え方は、他の教科でも大切であると思います。
- ・「ラーニングマップⅡ」は子どもたちの行動を予測し、サイクルを考えるだけではなく、教師間での共有にも重要となってくると感じた。
- ・サイクルとはどういったものかを考えていたが、実習の時もそうだったが、子どもが中心でその反応によっては予定を変更していく必要もあると感じた。
- ・実際に子どもたちがこの授業を受けたらどんな反応をするかと想像するのに「絵を描いて表す」という方法はとてもやりやすいと感じた。単元目標と子どもに身に付けさせたい力をどんな言葉で表すか、どう関連付けるか、考えるのに苦戦したが、その分内容が具体的になっていくさまがとても楽しい。自分が子どもの頃、こんな授業があったらどう考えてどう行動しただろうと想像しながら「わくわく」「ドキドキ」がたくさんつまった単元をつくっていききたいと思った。
- ・課題として、教師が「こう反応してほしい」という願望のあまり、こじつけのような構成になってしまいがちであることがあげられる。「先生が言ったから」ではなく、子ども自身が未来について考えをふくらませたくなるようなサイクルを目指して検討をすすめていきたい。
- ・今回の「ラーニングマップⅡ」で前回まで考えていた子どもたちの対応にチーム内での違いに気づいた。実際子どもがどういった反応をするのか、どういうことに気付いて疑問に思うのか、今の時点ではことなることは当然であると考えた。
- ・探究的な学習を進めるために様々な学習方法があることを知りました。子どもが主体となることができるように様々な方法を取り入れて授業を進めていききたいと思いました。
- ・子どもたちにたくさんの活動をさせ、まとめ、深め、その場だけの学びにしないためにも、落ち着いて課題と向き合えるだけの時間が必要なのだと反省しました。長すぎるとあきってしまうとの言葉もあって、活動の内容と時数はよく検討しなければいけないのだと改めて思いました。

総合的な学習に「ラーニングマップⅠ（学習活動案スタイル）」を活用した事例の課題より、吹き出しで子どもの活動や心情を表現すること、教師をラーニングマップに記載して子どもとのかかわりを表すこと、学習の高まりや深まりを表現する手立てを設けることが必要であることなどが明らかになった。

そこで、「ラーニングマップⅡ（単元構想スタイル）」では、

- ① 学習環境とのかかわりや人物の思いや願い・考え等を吹き出しで話していること考えて簡単な言葉で表現すること、
- ② 教師も絵と言葉で書き表し、子どもとの具体的なかかわりを表現すること、
- ③ スパイラルを意識することで単元の時間の経過と、学習の高まりや深まりを表現する工夫をすること

で「ラーニングマップⅠ」の課題となる点を解決していった。

その結果、単元構想を「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の一連の探究的な学習を3段階のスパイラルに発展させた。探究課題の入り口を実生活・実社会での子ども

もの興味・関心、疑問・課題、思い・願いに設定し、出口を実生活・実社会へ生かすこととしたことで、大きくくりとして単元を構想することができた。

大学での本授業を受けているのは4年生である。「ラーニングマップⅡ」を活用して単元構想をする際に、子どもの学年を5年生とし、ある程度の探究的な学習の経験を重ね、これまで総合的な学習の時間や他教科の学びで培ってきた知識と技能を概念的理解として集積し、関連付けてそれらを活用でき始めている存在として想定することとした。学習の対象をグループで話し合える共通の場として、神戸親和女子大学と想定した。

同じ神戸親和女子大学を学習の場として想定したにもかかわらず、全く異なる展開になったことに驚きと面白さで受け止めている様子が学生の言葉から理解することができる。

「ラーニングマップⅡ」を活用した例にあげたグループは「神戸親和女子大学」での活動から自分の将来の夢を描いていく「えがこう わたしの 未来絵」というキャリア教育に学びが発展していく単元構想を描いている。

「ラーニングマップⅡ」に記入された絵と吹き出し内の言葉を検証していくと、1段階での子どもは「大学探検」を通して学食や図書館・学生の学びの姿等に興味・関心をもち、教室を覗いて観察したり、簡単な会話で尋ねて情報を集めたりして、大学って何をするとところなのかを次のスパイラルの課題として設定していることが分かる。2つ目のスパイラルでは、学生に自分の疑問・課題を尋ねたり、おばあちゃんに親和女子大学について尋ねたり、学生に直接尋ねて集めた情報を教室で発表して情報交換をする姿が表されている。学生が教師になる夢をかなえるために大学に来て学んでいることや大学で学ぶ目的や夢を叶えようとする学生に触れ、自分の将来の夢を描き始める姿が描かれており、これが3つ目のスパイラルの自分の将来なりたいものを探ることが課題設定として設けられていることが分かる。まさに子どもにとっての未来を描く「未来絵」となる。

学生にとって総合的な学習の研究の第4回目の授業で行った初めての単元づくりであるが、「ラーニングマップⅡ」を活用することで、単なる学習活動の羅列ではなく、学習の高まりや深まりのある探究的な学習の過程を踏まえた展開がなされている。

一方、子どもに接する機会がまだ多くなく、子ども理解ができていくことにより、問題も発生してきていることを学生は落ち着いて理解している。指導者に都合よく子どもの姿を設定してしまうくらいやグループ内で子どもの具体的な姿が全く異なる点により方向性を見いだせなくなる傾向である。

しかし、学生の受け止めにも見られるように、現在の時点では、無理からぬことである。むしろ幅広く想定できることの方が指導力をつけていくことにつながり、「ラーニングマップⅡ」の活用により具体的な子どもの学びの姿をあれこれと想像し、環境とのかかわりを思い描き、そこで教師がどうかかわっていくのがよいのかを探っていくこと自体が大きな効果であると思われる。

学生が「ラーニングマップⅡ」を活用した単元構想に夢中になって取り組んでいる姿が受け止めの言葉から探ることができる。まさに「わくわく」「どきどき」である。この学びに興味をもち、楽しみ、自分たちで授業以外の時間に進んで集まり単元構想を練っていったことが学生の会話から判明した。具体的に考えることができることによる「ラーニングマップⅡ」効果であろう。指導力向上の一步は自分が楽しさを体感することであると考えている。

4. 今後の研究への課題

現在「ラーニングマップⅠ」「ラーニングマップⅡ」を活用した大学での授業が始まったところである。これから事例を集め、問題点・課題点を洗い出し、さらに「ラーニングマップⅠ・Ⅱ」を確かなものにしていくと同時に、授業の中でどう活用していくことが学生の総合的な学習の時間の指導力をつけていくことにつながるのか明確な視点を設けていくことで明らかにしていきたいと思う。

探究的な学習過程の認識が形骸化することのないように留意する。課題探究を通して目指す資質・能力が確かに育成される「主体的・対話的で深い学び」を効果的に構築する「ラーニングマップⅠ・Ⅱ」を究めていく。

参考文献

- 1) 文部科学省編「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」2017年7月
- 2) 田村学編著「新学習指導要領の展開 総合的な学習編」2017年11月
- 3) 「総合的な学習の時間について 教育課程部会 生活・総合的な学習の時間 ワーキンググループ資料6」2015年12月
- 4) 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編」2010年11月
- 5) 田村学編著・みらいの会著「生活・総合 アクティブラーニング」2015年6月
- 6) 神戸市北須磨小学校編「KITASUMA 神戸市パイロットスクール事業研究発表会『いのち』をつむぐ」2015年2月p59～72
- 7) 山田希代子「平成26年神戸市パイロットスクール北須磨教育研究協議会ラーニングマップ」北須磨教育研究2015年2月p1～26
- 8) 藤池安代・山田希代子著「生活科の指導向上のための一考察～ラーニングマップを活用して～」「神戸親和女子大学 児童教育学研究 第37号」2017年3月